

※クリックすると記事のページを開きます。

|   |    |
|---|----|
| ① ラオス国立大学留学報告（2016年9月～2017年6月）：ラオス国立大学での留学生活..... | 2  |
| ② ラオス国立大学への派遣留学（2017-18年）：ラオス国立大学留学体験記.....       | 5  |
| ③ ラオス国立大学への派遣留学（2018-19年）：多くの学びを得た、ラオスでの1年間.....  | 10 |
| ④ ラオス国立大学への派遣留学（2019-2020年）：ここが私のアナザースカイ.....     | 15 |

## ① ラオス国立大学留学報告（2016年9月～2017年6月）：

### ラオス国立大学での留学生生活

2016年9月から2017年6月まで、ラオス人民民主共和国、ビエンチャンのラオス国立大学へ留学しました。

ラオス国立大学は2学期制で、学年によって異なりますが、1学期が9月または10月から1月中旬または2月初旬まで、2学期が1月末または2月から6月または7月までです。



ラオス国立大学前にて

私は文学部ラオス語・ラオス文化学科に在籍していました。この科にはラオス人の学生のほかにベトナム人、カンボジア人、中国人、韓国人など、様々な国からの留学生も在籍していました。いろいろな国から来た学生と友達になることができ、とても楽しかったです。私は、ラオス文学・ラオスの歴史・ラオスやその周辺の文字史・タム文字などの授業を受けていました。

3月にはラオス語・ラオス文化学科の留学生ラオス語スピーチコンテストが行われ、私も日本からの交換留学生の代表として出場し、「外国語学習について」というテーマでスピーチをしました。スピーチコンテストに出ることが決まってからは、毎日ラオス人の先生や友人にスピーチを聞いてもらい、きれいな発音で話せるようにたくさん練習をしました。スピーチ後には質疑応答もあ



スピーチコンテスト後の集合写真

ります。ここではスピーチの内容についてではなく、ラオスの文化や社会に関する知識を問うような質問をされます。スピーチの内容、発音、質疑応答での答えなど、総合的に評価されて順位が付けられます。私は惜しくも3位以下の学生全員に与えられる奨励賞に留まりましたが、毎日同じクラスで勉強している中国人の友人が最優秀賞を受賞しました。もちろん悔しさもありましたが、それ以上に、自分も負けてばかりいられないと感じ、ラオス語学習に対するモチベーションがさらに上がりました。

授業後にはよく日本語学科に行って、日本語を勉強している友達と話したり、お互いの勉強を教えあったりしていました。2 学期には、日本語学科の 1 年生の宿題の添削の手伝いもしました。ラオス人の学生の宿題を見ていると、普段は気づかないような日本語の難しさや面白さに気づくことがあり、とても楽しかったです。

ラオス国立大学敷地内にあるラオス日本センター（LJI）の日本語クラスの学生ともよく一緒に勉強をしたり、遊んだりしました。日本語の授業での交流会に参加したり、LJI で行われるお正月の日本祭りで着物を着て書道ブースの手伝いをしたり、様々な形でラオス人の学生と交流をしました。



LJI の新年日本祭りにて

住居はビエンチャンの街中でアパートを借りて住み、そこから大学へは市内バスで通っていました。バスは日本の援助で送られたもので、空調もついていてとても快適でした。

食事は、学校ではフードコートや学校の周辺にあるお店で食べ、街中では屋台で買った外食したり様々でした。屋台ではお米やおかずが安く売られていて、種類も豊富でした。私は主食の他に、フルーツやラオスのデザートを買って食べるのが楽しみでした。ラオスの人々は辛いものが好きで、ラオス料理にも辛いものが多く、唐辛子がたくさん入っています。そして、調味料をたくさん入れてオリジナルの味付けをします。私は、カオピヤックという、日本のうどんのようなもちもちしたラオスの麺料理が好きでよく食べました。ラオス人の真似をしてスープにたくさんの調味料を入れて食べ、帰国する頃にはそれがないと物足りなく感じるようになりました。

休日は、友達とご飯を食べに行ったり、遊びに連れて行ってもらったりしました。ラオス人の友達には、おすすめのお店やラオス語など色々なことを教わりました。ラオスで活躍されている日本人の方々とも知り合いになり、色々な道があるなあ勉強になりました。他にも、映画を観に行ったり、プロサッカーを観に行ったり、色々なことをして過ごしました。実際にラオスで生活してみないと経験できないことばかりで、どの時間も忘れられない素敵な思い出になりました。

ラオスでの生活で特に楽しみにしていたことは、毎月のようにある仏教のお祭りに参加することです。中でも印象に残っているのは、タートルアン祭りとピーマイラオ（ラオス正月）です。タートルアン祭りは旧暦 12 月の満月の夜に行われる、ラオス最大の仏教行事です。多くのお店が立ち並び、タートルアンと呼ばれる仏塔に大勢の人々が集います。ロウソクの火を手にタートルアンの周りを三周する儀式が行われ、最終日には早朝から托鉢が盛大に行われます。実際に参加してみて、このお祭りの盛大さに圧倒されました。儀式も托鉢も大規模で、国の一大行事であるのだと実感しました。



ライトアップされたタートルアン

ピーマイラオはラオスの最も暑い時期である 4 月に行われます。この時期は仏像が本堂から運び出され安置され、それを入々が聖水で清めます。私も友達とお寺巡りをし、聖水で仏像を清めました。また、この期間は誰彼構わず水を掛け合います。バケツやホースで容赦なくかけられるので、迂闊に外に出るとびしょ濡れになります。学校も休みになるので、友達と思い切り水を掛け合って遊びました。日本ではできない経験で、こんなにはしゃぐことはもうないと思うくらいに楽しみました。



ピーマイラオの水かけの様子

学校での勉強だけではなく、普段の生活の中でも多くのことを感じることができ、日本にいただけでは学べない多くのことを学ぶことができました。この経験はこれからの私の人生にも必ず生きる、絶対に忘れられないものとなりました。

(2017 年 12 月 C.A. & K.N. 記)

## ② ラオス国立大学への派遣留学（2017-18年）：

### ラオス国立大学留学体験記

2017年8月末～2018年7月までの約10ヵ月間、ラオス人民民主共和国の首都ビエンチャンにある、ラオス国立大学に留学しました。その留学中の出来事を、大学での勉強、日常生活、ラオスの行事・イベントという3つのテーマに分けて以下にまとめたいと思います。

#### 1. 大学の勉強

私たちの留学していたラオス国立大学はラオスの首都ビエンチャンにある総合大学で、12の学部で構成されています。その12の学部のうち、派遣留学生は文学部ラオス語文化学科に在籍します。学年により異なりますが、授業は前期(9月～1月初め)と後期(1月末～6月中旬)の2学期制でクラスには主にラオス人、中国人、ベトナム人、また他の国からも少数ですが留学に来ている学生がいました。

履修する科目は2年生～4年生の時間割の中から自分の興味のある科目を5科目前後選びました(1年生の科目と英語の科目は履修出来ませんでした)。科目はラオスに関するものもあれば言語学などの一般的なものもありまし

た。私は「ラオス文学」「ラオス語学」「言語学基礎」「パーリ語サンスクリット語」「タム文字」などを履修しました。派遣留学なので単位互換ができそうなものを中心に選びました。タム文字は昔のラオスで使用されていた文字で、現在では仏教経典などにのみ使用するようです。パーリ語サンスクリット語・タム文字の科目の単位互換は出来ませんが、おそらく日本の大学にはない、留学に行ったからこそ学習できる科目だったので受けられてよかったと思っています。

授業は、1コマ90分で1限はなんと8時30分から始まります。主に教科書やプリントを用いて行われます。授業は発言を求められるものやグループワークが多いものなど、積極的な参加を求められるものが多かったように感じました。もちろん授業で使う言語はすべてラオス語だったため、初めのうちは授業についていくのがやっとで、1コマ受けただけですぐに疲れて



教室の雰囲気。クーラーはなく扇風機のみで、時々その扇風機も止まっていました。



使っていた教科書

していました。しかし予習や復習、先生から出された課題をこなしていくうちに少しずつ授業も楽しくなっていました。授業中、クラスにいる外国人に気を遣って理解できているかこまめに確認して下さる先生や、教科書のわかりにくい表現をラオス人の学生にかみ砕いて説明するよう促して下さる先生もいました。おかげで精神的な面でとても授業が受けやすくなりました。また、グループワークも多かったので、ラオス人の学生だけではなくほかの国からの留学生とも仲良くなれました。

どの教科も大体中間テストと期末テストがあります。成績はこのテストと出席と課題で決まります。評価は ABCD の 4 段階で、テストの方式は選択や記述、口頭などがあります。特に口頭の試験ではとても緊張しましたが、試験中は勉強した成果がその場で感じられたのでよかったです。



授業は割とのんびりとした雰囲気です。授業中に犬が教室に入ってきてそのまま授業をすることもありました。

## 2. 日常生活

私たちはビエンチャンの中心地にあるアパートを借りて生活していました。学校の近くに住むという選択肢もありましたが、買い物や食事に便利で、文化会館や大きな病院なども近くにあったこともあり中心地に住むことに決めました。日々の生活は、大体月曜から金曜は毎日授業がありました。私たちの学部では午後はほとんど授業がなかったので、朝早く比較的涼しい時間に登校し、授業が終わった後は現地の大学の日本語科に遊びに行ったり、バスで早々に帰って家の近く(メコン川付近)を散策したりしていました。

日本語学科は日本の中学や高校のように学年ごとのクラスがあるので、教室に遊びにいくと誰かしらいることが多かったです。1年生の時のショートビジットで仲良くなった現四年生の学生たちの教室を覗きに行き、だれかいればそこでお喋りをしたり、一緒にお菓子やフルーツを食べたり、学校の課題でわからないところがあればお互いに教えあったりしてとても有意義でした。また学生だけではなく日本語学科の先生達も暖かく迎えてくださり足を運びやすかったです。

日本語学科に遊びに行かない日はバスで帰って、終点のタラートサオ(中心街の市場)にフルーツや野菜を買いに行ったり、自宅付近のカフェで課題を消化したりしていました。正直大学の課題はそれほど多くなかったのですが、最初のころは特に予習復習をしないと次の授業が大変だったので、結構頑張りました。ビエンチャンのカフェは、お洒落でリーズナブルなところがたくさんあり、勉強したり友人とちょっとお喋りしに遊びに行ったりするのもとてもよかったです。また夕飯は自炊もしましたが大体は外食でした。ビエンチャンに住んでいる間に出来るだけ沢山の飲食店に足を運んでみようとして色々回りましたが、結局大衆食堂のようなラオス料理屋が一番美味しかったです。全てではないですが、値段が高いところは大体装飾やサービスにお金を費やしているような感じが見てとれました。



こちらはラップ(laab)30000 キープ。日本円にして約 420 円。このお店の中では高い方の料理ですが、ミントやレモンが効いていて絶品でした。この他にもガパオライスやトムヤムクンなど美味しい料理がたくさんありました。



あとは定番だったのが、友人と「とうふ」を飲みに行くことです。甘い豆乳にゼリーが入っている飲み物で大体 100 円しないくらいです。夕飯後に飲みながらお喋りしていました。

土曜日や日曜日は学校がないので一日の時間を自由に使うことができました。例えばバスで行けるようなビエンチャン近くの観光地を巡ったり、友人の家にお邪魔して一緒にラオス料理を作ったり、結婚式に参列させてもらう機会も何度かありました。土日以外の祝日や学期末のお休みには他県(ルアンパバーン県、ルアンナムター県など)に旅行に行ってラオス語の方言を聞くチャンスがあったり、タイのウドンターニーでラオス人がよく買い物に行くマーケットに行ったりと、ビエンチャンから離れてもラオスについて学ぶことが多くありました。

健康面では、水や食事で何度かお腹の調子が悪いことはありましたが特に大病はしませんでした。屋台のものはよく危ないと言われますが、きちんとお店を見分けて気をつけて食べていけば問題はありませんでした。

治安の面では、知っている限りで2人の友人がひったくりに遭ってしまったので、荷物はどこにいてもしっかり身につけて持っておいた方がいいと思いました。しかしそれ以外の点で身の危険を感じることはあまりなく、顔見知りになった近所の人や学校の警備員さんなど多くの方々に親切にして頂き、穏和でフレンドリーな方ばかりだなと日々感じました。



「出安居(オークパンサー)」の時期にルアンパバーンの  
お寺へ行った時の写真です

### 3. ラオスの行事・イベント

1年弱のラオスでの生活では様々な年中行事も経験しました。なかでも特に印象に残っている「タートルアン祭」とラオスのお正月である「ピーマイラオ」について紹介したいと思います。

「タートルアン祭」は旧暦12月（現在の11月）の満月の日の前後に行われる、ラオス最大の仏教の祭典です。このお祭りでは、各地から何十万という人が、ビエンチャン市内にあるタートルアン（ラオスのシンボルとされる金色の仏塔）に集まります。そして朝から大規模な托鉢をし、夜には口ウソクをもって塔の周りを3周してお祈りする儀式などが盛大に行われます。お祭りの期間は、タートルアンは美しくライトアップされ、周りには屋台がたくさん並び、とても盛り上がります。私も大学の友達とお祭りに参加し、タートルアンの周りをまわる儀式を体験しました。間近で見た金色のタートルアンの美しさと、お祭りの規模の大きさ、人の多さがとても印象に残りました。また同時に、ラオスでの仏教と人々のかかわりの深さや、この行事がラオス人にとって大切な、歴史ある行事なのだということを実感しました。



ライトアップされた夜のタートルアン。幻想的な  
表情を見せてくれます。

「ピーマイラオ」は4月中旬に行われる、ラオスのお正月を祝う行事です。「ピーマイラオ」では、この期間だけ本堂から出される仏像を拝みにお寺を何か所もまわり、喜捨やパーシー（手首に糸を巻いて健康や幸せを願うラオスの儀式）を行います。

このお祭りで特徴的なのは、地元の人も観光客も一緒になって、互いに水をかけあって盛り上がるという習慣があることです。この行事に合わせて学校の授業は1週間ほど休みになり、大学全体で「ピーマイラオ」を祝う日も設けられていました。「ピーマイラオ」が近づくに街全体の雰囲気はどことなく高揚しはじめ、お祭りの期間が終わってもしばらくは余韻が残っているのを感じ、人々がこの時期を1年で最も楽しみにしているということが伝わってきました。私も仲のいい友達と大勢で出かけて、たくさんのお寺をまわり、水のかけあいも楽しみ、「ピーマイラオ」の雰囲気を満喫できました。



普段はお寺の本堂の中に収められている仏像が「ピーマイラオ」の時期だけ姿を現します。

このほかにも、多くの行事やイベントに参加する機会がありました。結婚式やラオス式の送別会など、友達が誘ってくれて参加できたものも多く、とてもありがたく思っています。どの行事・イベントでも、ラオスの文化に触れると同時に、日本の文化や風習についても改めて考え、さらにラオス人の友達に紹介するといった機会を持つことができ、貴重な経験になりました。

(2018年11月 I.Y.& Y.Y.& Y.A. 記)

### ③ ラオス国立大学への派遣留学（2018-19年）：

#### 多くの学びを得た、ラオスでの1年間

言語文化学部 ラオス語専攻

藤村 麻白

私は2018年9月から2019年6月の10ヶ月間ラオス国立大学に留学しました。ここでは、1. 学業 2. インターンシップ 3. 日常生活 4.まとめ の構成で、私のラオスでの経験を紹介したいと思います。



#### 1 学業

授業は文学部ラオス語・ラオス文化学科の学生と受け、1 クラス 70 人のうちラオス人学生、中国人学生、ベトナム人学生の割合が 2:5:3 と、ラオス人よりも現地に住むベ

トナム人や、中国からきた交換留学生の方が多く、ベトナム・中国にとってラオスという国への関心の高まりが感じられました。

文学部では、ラオスの文学、歴史、文化など興味深い科目が多く開講されており、私はその中から以前から関心があった、文学、文化の授業を中心に履修しました。

授業は1日に1、2コマほどで、午前中に学校が終わることが多く、午後は勉強やインターンシップの時間に当てました。授業のスタイルは日本の中学・高校のようなスタイルで、教科書に沿って先生が板書をし、意見を求められた時に発言するという形でした。留学当初は先生の言っていることを理解することが難しかったのですが、あらかじめ、教科書の中で分からない単語を調べ、文章を理解してから授業に出席することで、理解度が深まりました。そして帰国する頃には授業の6、7割ほどを理解できるようになりました。またラオス人のクラスメイトも分からない時には助けてくれ、ラオス人の優しさを感じる事ができました。



授業風景。教室の椅子や机が木できていたことや、エアコンがないなどの日本との違いに戸惑いながらも、貴重な経験ができました。



ラオス国立大学の制服。学部ごとにネクタイの色が異なり、文学部は青いネクタイでした。下に合わせるのはラオスの民族衣装のシンと呼ばれるスカートです。

## 2 インターンシップ

先に述べたように、私は授業以外の時間をインターンシップに当てました。インターンシップをしようと考えた理由は、留学前から、留学期間を、<前半:学業に専念する><後半:学業以外の事にも力を入れる>というように、2つのフェーズに分けようと考えていたからです。



Xaoban のヨーグルトを使ったレシピを考案、動画を撮影する広報活動を行いました。

参加したインターンシップは Xaoban というヨーグルトやジャムなどをはじめとする食品を製造する企業でのインターンシップでした。この企業を選んだ理由は、教育・住環境・労働・格差などラオスにおける様々な課題を、ビジネスを通して解決しようとする企業であり、以前から社会貢献につながるビジネスに関心があったからです。私はここで主に広報を担当し、Facebook ページの英語・ラオス語・日本語での更新などを行い、内容についてのミーティングもラオス語で行うことができました。そのためインターンシップはラオス語のアウトプットをより実践的な形でできる良い機会でした。ラオスにおける課題と解決に向けて行われている様々な取り組みについて学ぶことができ、また、ラオス人と一緒に働くことを経験できたことは今後の仕事・自分のやりたいことのビジョンを大きく変化させる良い経験となりました。

また、週に1・2回、国際交流基金のラオス中等教育学校用日本語教科書改定作業のお手伝いをさせて頂きました。

教科書改訂という今まで自分の知らない仕事について学び、また外国語を教える際にどのような点に気をつければ良いのかを考えるきっかけとなりました。

### 3 日常生活

私はビエンチャンの中心地にあるアパートに住んでいましたが、部屋は 1 人暮らしには広すぎるくらい大きさがありました。ラオスでは当たり前である停電によってエアコンが使えなくなったり、水が使えなくなったりしたことを除いてはとても快適に過ごす事ができました。



部屋のリビング

また屋台からレストランまで食事をするところがたくさんあったため、ラオス料理に飽きてても、イタリアン、日本食、韓国料理、インド料理など他の国の料理も選ぶことができました。私は調理器具や食材調達のコストを考え、安く済ませることができる外食がほとんどだったため、自炊はしませんでした。

ラオスには高所得者向けの大型スーパーを除いては、日本のいわゆるスーパーのようなものがなく、食材は市場に買いに行く必要がありました。市場の食材は新鮮で安くとても魅力的でしたが、1kg 単位で買わなければいけない場合が多く(グラムでも良いと言ってくれる優しい人もいました)、一人暮らしには不向きでした。そんな中でも kg 単位で食べたいと思ったのが、マンゴーでした。マンゴーは 1 キロ(標準的なサイズのものが 3-4 個)で 120-200 円と日本のマンゴーとは比べ物にならないくらい安く、またその味も本当に美味しかったです。

市場は朝早くから始まり、8 時ごろには閉まってしまうため、6 時 30 分頃に日課であるメコン川沿いのランニングを終え、そのまま走って市場にマンゴーを買いに行きました。日の出を見ながらメコン川を走り、その後に美味しいマンゴーを食べる。このルーティーンがとても好きでした。



朝の市場の様子



大量のマンゴー

授業、インターンシップ以外の時間の多くはカフェ巡りをしました。ビエンチャンにはおしゃれなカフェが多く、日本と違いほとんどの場合空いているため、勉強したり、友人と話をしたり、カフェでゆっくりすることができました。世界中どこにでもあるチェーン店やショッピングモールは一つもありませんが、カフェだけは他の国々に引けを取らないくらいクオリティが高く、カフェ巡りに焦点を当てれば、ビエンチャンは女子旅に人気のスポットになるのではないかとこの可能性を感じました。ラオスはコーヒー豆の産地として有名であるため、コーヒーが美味しいことも売りの一つになりそうです。

私が一番驚いたのは、ビエンチャンに猫カフェがあるということです。留学が始まって半年の時に、家の近くに猫カフェがオープンし、ここは私の一番お気に入りのカフェとなりました。



その他に印象に残っているイベントを紹介します。



モン族の伝統的なお正月を体験した時の一枚です。ボールを投げ合って、お願い事をしました。向かって左から2人目が、モン族の民族衣装を着た私です。



### ビエンチャン国際ハーフマラソン

朝の5時半スタートという早い時間からのスタートでしたが、ビエンチャンの観光名所を回りながらのレースはとても楽しかったです。そして、20代女子の部でラッキーなことに3位入賞しました！

### 3 まとめ

このラオス留学を通して、留学の目的である「ラオス語力の向上」「現地の生活を経験し、ラオスに対する理解を深める」、この2つの目的を達成することができました。ラオス語力に関しては、もちろんまだまだではありますが、「毎日ラオス語に触れる」という体験は留学に行かなければできず、通じなかった時に「悔しい、通じるようにもっと頑張ろう」と感じる事ができ、自分なりに様々な工夫をし、通じた時に大きな喜びや達成感、そしてもっとラオス語を話したいというモチベーションの向上にも繋がりました。今後は留学で培った語学力をどのように維持、向上させていくのが課題であると感じています。

ラオスに対する理解を深めるということに関しては、行事やラオス人との交流から文化面に対する理解を深めることができ、実際の現地での生活からはラオスの今後の課題を自分なりに見つけることができたと思います。この課題を見つけた事で、今後、自分がやりたいことがはっきりとし、視野が広がりました。これらの現地で得た生の発見を忘れずに、今後に活かしていきたいと考えます。

最後に、この留学を有意義なものになるようサポートしてくださった先生方、大学の職員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ④ ラオス国立大学への派遣留学（2019-2020年）：ここが私のアナザースカイ

言語文化学部 ラオス語4年

白勢三紗

私は2019年9月から2020年4月5日まで、長期派遣留学生としてラオスの首都ヴィエンチャンにあるラオス国立大学に留学しました。このプログラムの期間は10ヶ月間であり7月に帰国する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月の一週目に緊急早期帰国することになってしまいました。大変残念ではありましたが、7ヶ月というやや短い期間でも本当に充実した留学生活でした。一生の思い出を作り、素晴らしい経験・体験を得ることができ、新しい発見や気付きも多くありました。そこでこの体験記では、「1.学校生活 2.特に印象に残る思い出 3.ラオスで出会った友人たち 4.最後に」といったトピックに分けて、私の留学生活をご紹介します。

### 1. 学校生活

私は首都ヴィエンチャンにあるラオス国立大学のラオス語学科で勉強していました。毎年語科の先輩方から聞いていた通り、クラスの中はラオス人よりもベトナム人と中国人の生徒が圧倒的大多数で、授業の度に不思議な気持ちになりました。その2カ国とラオスという国は本当に繋がりが深いのだと感じました。また今年は東京外大からの派遣留学生は私一人だったため、どの授業に行っても日本人は私一人であることがほとんどでしたが、それを見た周りの学生が分からないことを教えてくれたり、グループ発表の課題があれば一緒にやろうと誘ってくれたりしたため、孤立して困るということはありませんでした。特に中国人留学生がとても積極的に声を掛けてくれて、当初は友達作りに積極的ではなかった私ですが、彼らとは留学中にはお泊まり会やご飯会を頻繁にして、今でも他愛もない連絡を取り合うほど仲良くなりました。



ラオスで仲良くなった中国人留学生の友達と

一緒にクリスマス（右端が筆者）

### 2. 特に印象に残った思い出

私は1年半ばに同大学の日本語学科の社会科見学に参加し、学科の先生や学生合わせて120人ほどで1週間ほどラオスの南部を巡りました。バスのみでの移動でしたが、山がちな北部とは違って南部へ下りていく道はなだらかで乗り

心地も良かったです。しかしながら車内ではある程度静かに過ごす(であろう)日本と違い、カラオケ大会をしたりダンス大会をしたりと常に爆音で音楽が流れ、学生たちも賑やかでした。最初は音量のあまりの大きさと彼らのテンションの高さに驚いていましたが、友達に輪の中に入るよう誘われ、気付くと私も一緒に楽しんでいました。

南部地方へ行くまでの道程では、カムムアン県で下車して昼食をとり、サワンナケート県にあるタート・インハンという有名な寺院で旅の無事と行事の成功を祈りました。お寺での参拝では、仏教を信仰する友人たちに参拝方法を教わりました。線香とお花を備えお祈りをし、お坊さんにお経を唱えてもらいながら腕に白い糸を巻いてもらい、近くにある大きな鐘をさすり最後に鳴らすと、信仰心の篤くない私であっても、とても心が清められたようでした。

またサワンナケート県には経済特区と呼ばれる地区があり、様々な国の工業地帯が連なっ

ています。そこには日本の企業も進出しており、いくつかの工場を見学させて頂きました。ラオス人と日本人が共に働く現場を初めて目にし、ラオス人日本人両方の従業員からお話も聞くことができ、将来のキャリアについて深く考えることが出来ました。



日本語学科の社会科学見学で行った

チャムパー サック県の有名な

タートニユアンの滝にて

チャムパーサック県では、主に観光をしました。世界遺産に指定されているワットプー寺院、ワットプーサラオ寺院(黄金の仏像がメコン川を俯瞰するように立っているお寺)や有名な滝をいくつか回りましたが、どの場所も絶景で感動しました。雄大で豊かなラオスの自然の素晴らしさを身体全体で感じました。

他にもまだまだたくさんのイベントが盛り込まれており、私もどれも楽しく参加し、7日間共に過ごした学科の友達や先生ともより仲を深めることが出来ました。一人で行っても決して出来ない経験であったため、誘ってくれた友人、参加を許可して下さいました先生方に本当に心から感謝しています。

### 3. ラオスで出会った友人たち

ラオスで出会った私の友人についても書きたいと思います。そもそも私が一年の派遣留学を決めた理由は、ラオス語力の向上の他に、一年生の冬学期にショートビジットでラオス国立大学へ行った際に知り合った日本語学科の友人達にもう一度会いたかったからです。そして私はこの派遣留学で2年越しに彼らと再会することが出来ました。それからは、伝統的な行事があれば一緒に連れて行ってくれ、休日や放課後に美味しいラオス料理を食べに行ったり、お家でラオス風焼肉・お鍋パーティーをしたり、メコン川に夕陽を見に行ったりよく遊んで、多くの時間を一緒に楽しく過ごしました。またこの留学では初めて知り合った日本語学科の他の学生達とも大変仲良くなりました。私が学科に行けば皆が話しかけてくれ、お昼ご飯や放課後のおやつに誘ってくれました。私は放課後に彼らとタム(ラオスの辛いサラダ)を食べに行ってお喋りすることが特に好きでした。空いた時間にはお互い勉強もよく教え合いました。彼らと普段からラオス語を使って会話することで生きたラオス語に触れ、語学の楽しさを日々感じました。このように沢山の友人に恵まれて本当に有り難く嬉しかったです。



出安居の日と一緒に喜捨をしに

連れて行ってくれた友人と

### 4. 最後に

半年ほどの留学生活となり、最後の方は友人にも会えずほとんど外出も出来ませんでしたが、思い返せば、ラオスへ留学したからこそ得られた経験がここに収め切れないほどあったということに気付きました。それは語学力の向上に繋がるものであったり、ラオスの文化やラオス人の考え・生活スタイルをより深く理解することであったり、ラオス人の優しさに触れることだったり、実に様々です。時には言いたいことがラオス語で伝えられなかったり、発音がおかしいとからかわれたり、自分の考え方を理解して貰えなかったり、もどかしい経験もありましたが、そのような困難に直面したときにどのように対処・改善すれば良いかと悩み工夫してみたことも、自分の財産になったと思います。まだ今回の留学でやり残したことも色々あるので、それは次回またラオスへ訪れるためのモチベーションに変えて、これからの留学生活も頑張っていきます。

最後に、このような貴重な留学機会を与えて下さった先生方、留学生課の皆様、私の両親に感謝申し上げます。ありがとうございます。